

我々は何者なのか？

考古学や遺伝学の進歩が
明らかにする驚きの物語

科学者はホモ・サピエンスをどのように定義し、我々の種は我々以外の絶滅した化石人類たちとどう違うのか？本書は最新の科学——特に遺伝学の進歩が、人類の進化に関する我々の理解をどのように変革しつつあるかを探る。著者のポール・ペティットは25年にわたる現場での経験をもとに、アフリカからユーラシア、オーストラレーシア、そしてアメリカ大陸へと拡散していった人類の心の在り方の起源を示す具体的な発掘物や遺物から得た豊富な情報も活用し、はるか遠い過去に生きていた人々の生活に迫る。

ホモ・サピエンス
再発見

科学が書き換えた人類の進化

ホモ・サピエンス再発見

創元社

2024年
11月
刊行

ホモ・サピエンス 再発見

科学が書き換えた人類の進化

ポール・ペティット【著】 篠田謙一【監訳】 武井摩利【訳】

A5判変型／上製／376ページ 定価5,280円（本体4,800円）⑩ ISBN978-4-422-43060-7 創元社

篠田謙一

分子人類学者・
国立科学博物館館長



科学はどこまで
人間進化の
謎に
迫つたか。
洞窟壁画、石器と
狩猟、埋葬
そしてDNAなど
多岐にわたる
謎があつい！



ではないだろうか。

しかし、マンモスの骨の構造物は、私たちが考えるような意味での宝だったのだろうか？ ロシア科学アカデミーのコンスタンチン・ガザリーロフは、そうした構造物のいくつかはこれまで誤認されてきたと考へている。彼は、それらの構造物に「前歴したシントとはまたく違う」放棄された後に亂された形跡がほんんどないことを指摘した。つ

■ 30万年以上前の、モロッコのジェベル・イルード遺跡の洞窟は、初期のホモ・サピエンスの骨や彼らが使った石器を含む埋葬地でいっぱいだった。

ゴンツィ（クライ）で発掘された小屋、この遺跡にある大小6つのマンモスの頭骨や四肢骨のうち最大もので、およそ1万8000年前に火災にかけて崩壊した。マンモスの頭蓋骨は6個で直径8mの円形の土台が燃え、その上に圓には、少なくとも5頭のマンモスの下顎骨、125本の牙、60本の歯中骨、20枚の骨盤、そしてその他の骨が置かれ、近くの火の跡から山火事で焼けたといわれる。

われ、内側は軟皮とマットで内張りされていたと思われる。三角形をした下顎骨は、最大で5段も積み重ねてV字が並んだ杉板模様のように配置する。額の上部を交互に変えるながら立てて並べてシグダケの形を作るとかのどちらかの方法で使われ、床に穴を開けて貯ひさせた長骨の「柱」で補強された。メジンとメリチナは、それらの骨に赤と黄色の岩絵の具で描かれた杉板模様の跡が確かに残っている。リュドミラ・ヤコヴレヴァは、マンモスの骨を利用した構造物に見られる杉板バーンやシグダケパターンが女性をいたどった小屋にも観測できていることを指摘している。そして、住居という文脈の中に女性とマンモスを結び付けける象徴的コードがあつたのではないかと述べている。彼女はまた、マンモスがおそらく母系集団であったことも偶然ではないかもしれないとも指摘している。メジンの人々はこのことを認識したうえで、自分たちが動物の骨や皮で造った巨大な住居の中で、女性にマンモスと同様の楽しみで家を守る役割を付与したのだろうか？ なかなか魅力的な考え方

144 第10章 寒冷化

第8章 ストレス、病気、近親交配

145

目次

- 第1章 皮膚と骨
- 第2章 DNA研究の最前線
- 第3章 気候の変動と環境
- 第4章 拡散：アフリカからアジアへ
- 第5章 接触：ネアンデルタール人とデニソワ人
- 第6章 多様性
- 第7章 大災害：ホモ・サピエンス、ヨーロッパに到来す
- 第8章 ストレス、病気、近親交配
- 第9章 マンモスを中心とした生活

- 第10章 寒冷化
- 第11章 レフュジア：退避地
- 第12章 炉ばたと家庭
- 第13章 日の光が射さない世界：旧石器時代の洞窟絵画
- 第14章 ポータブル・アート：景観を持ち運ぶ
- 第15章 心の内側
- 第16章 死者の世界
- 第17章 アメリカ大陸への進出
- 第18章 家畜化の道：やがて人は自己家畜化へ



〔本 社〕大阪市中央区淡路町4-3-6 TEL(06)6231-9010(代) FAX(06)6233-3111
〔東京支店〕東京都千代田区神田神保町1-2田辺ビル TEL(03)6811-0662(代)

-----<キリトリ線>

創元社申込書 この注文書でお近くの書店さまへご注文ください。書店ご不便の場合は直送もいたします（詳細は創元社WEBサイトをご確認ください）。

ホモ・サピエンス再発見

ISBN978-4-422-43060-7 C1045

定価 5,280円 (本体 4,800円) ⑩

取り扱い店名

冊

ご住所	〒 一		
お名前	フリガナ	T E L	() 一
			【創元社WEBサイト】 https://www.sogensha.co.jp/



著者 **ポール・ペティット** Paul Pettitt

ダラム大学の旧石器考古学教授で、ヨーロッパ中・後期旧石器時代が専門。特に芸術の起源と死者に対する処置の発展に関心を持ち、ヨーロッパ各地をはじめ世界各地でフィールドワークを行っている。

監訳者 **篠田謙一** (しのだ・けんいち)

分子人類学者、国立科学博物館館長。1955年生まれ。京都大学理学部卒業。博士（医学）。産業医科大学助手、佐賀医科大学助教授を経て、国立科学博物館人類研究部勤務。2021年より同館の館長を務める。著書に『人類の起源』（新書大賞2023第2位）、『江戸の骨は語る』（科学ジャーナリスト賞2019）、『DNAで語る日本人起源論』、『新版 日本人になった祖先たち』など多数。

訳者 **武井摩利** (たけい・まり)

翻訳家。東京大学教養学部教養学科卒業。訳書にN・スマート編『ビジュアル版世界宗教地図』（東洋書林）、B・レイヴィアリ『船の歴史文化図鑑』（共訳、悠文書館）、R・カブシチキンスキ『黒檀』（共訳、河出書房新社）、T・グレイ『世界で一番美しい元素図鑑』シリーズ、J・ラーセン『微隕石探索図鑑』（創元社）など。